介護・福祉

福祉用具専門相談員

「実力見える化」議論

研修ポイント制度普及シンポ

（社）全国福祉用具専門相談員協会（以下・ふくせん、東京都港区）は昨年12月17日、都内でセミナー「福祉用具専門員の研修ポイント制度　普及・啓発シンポジウム&タウンミーティングin東京」を開催した。来年度よりスタートさせる研修ポイント制度の仕組みや活用方法、課題などを議論した。

▲パネルディスカッションの様子

当日は前厚労省老健局長の宮島俊彦氏と同厚労省老健局福祉用具・住宅改修指導官　介護支援専門官の宮永敬市氏がそれぞれ基調講演を行い、その後専門家らによるシンポジウムが行われた。

研修ポイント制度とは来年度より開始予定の仕組みで、福祉用具専門相談員の研修受講実績に応じてポイントを付与し、その情報を管理、公表するシステム。相談員のスキルアップと、サービスの質向上を目指す。ふくせんが厚労省の助成を受けて制度開発を行っている。

パネルディスカッションではふくせんの山下一平理事長が「福祉用具専門相談員にはレベルの高さが求められている。中にはレベルの高い人がいるが、全体では低すぎる状況。研修ポイント制度で相談員の力を見える化して評価することで、自然と勉強できる環境が整備されて質の底上げにつながる」と制度化のメリットを強調した。

（社）日本介護支援専門員協会の助川未枝保副会長は「このポイント制度には期待している。ケアマネは今後質の向上をしていかなければいけないが、それには福祉用具とどう関わっていくかが重要。質のばらつきは利用者やケアマネからは見えないもの。力を可視化することが制度の大きなポイント」だと評価した。

また12月18日には、福祉用具専門相談員の第6回実力テストの得点ランキングが30位まで発表された。11月に行われた今回のテストには過去最多の800名超が申し込んだという。